

御縁起略

官幣大社安房神社（千葉縣安房郡神戸村太神宮宮ノ谷御鎮坐）
（北條驛ヨリ二里十四町）

御本社御祭神（上ノ宮）

天 太 玉 命

相殿 天比理刀咩命及齋部五部ノ神

御攝社御祭神（下ノ宮）

天 忍 日 命

天 富 命

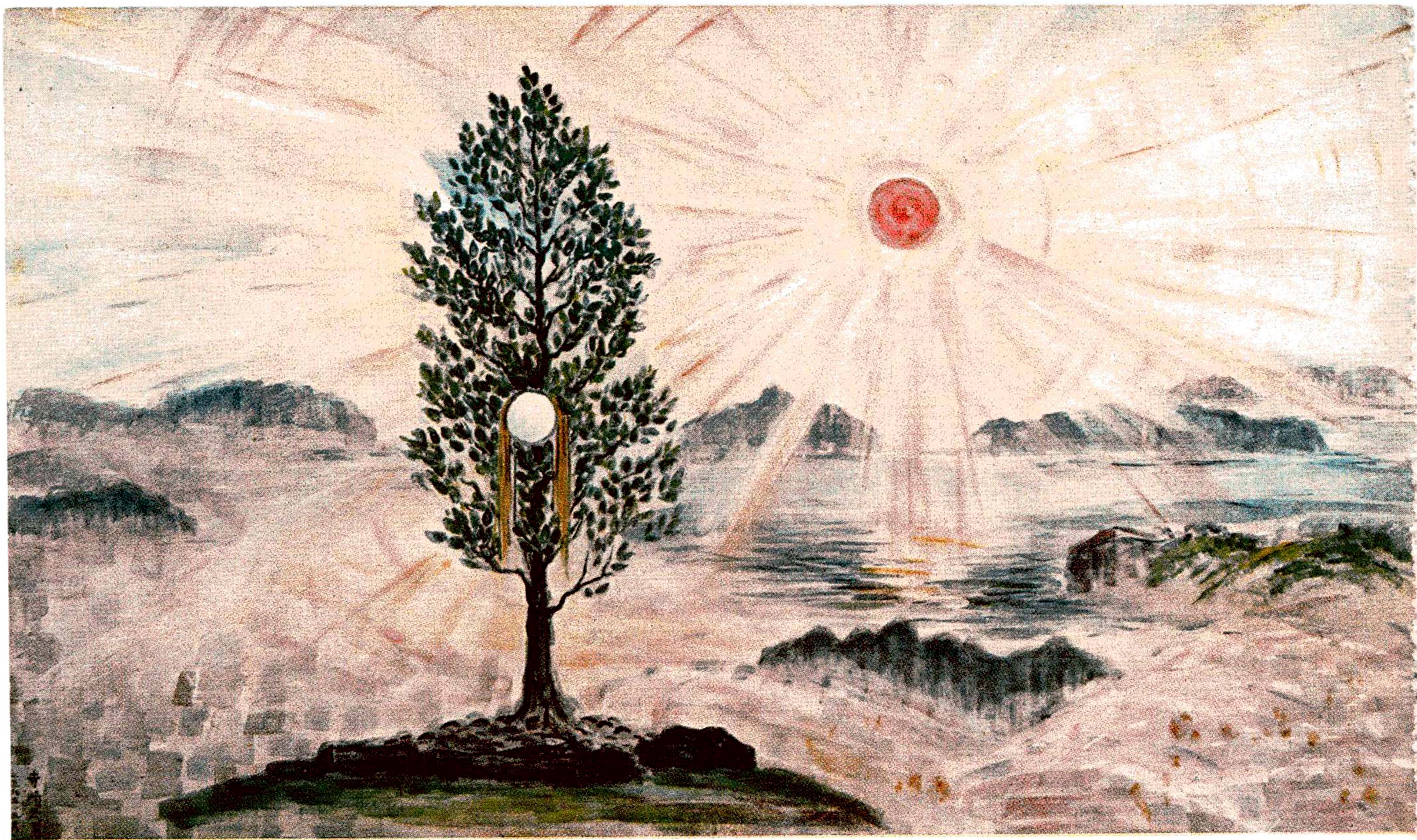
當社御本社御祭神天太玉命は掛卷も畏き 天照皇大神の御前に仕給ひし大神に坐して伊勢神宮にも重く祭らせられ御代々々の御守護と崇給へり神武天皇の御宇大神の御孫天富命勅命を奉じ阿波の忌部を率ゐて此地に移り草莽を拓きて農業を奨勵し又紀州の忌部を招きて漁業を指導せしめ斯に人民をして生業に安堵せしむるの大本を定給ひ頓て太祖太玉命を奉齋して大孝を伸べ以て人道の軌範を示給へり世に安房座大神宮と稱奉るは即是大神なり斯の如く由緒正しき御社なれば御歴代の御崇敬亦厚く明治四年五月十四日官幣大社に列せられ例祭八月十日を始め新年十二月十七日新嘗十一月三日等の大祭には幣帛神饌料を奉られ嚴肅なる祭典を行はせらる其他年中大小の祭事数多き中にも神田祭一月一日よ置炭神事一月十日粥占祭一月十五日早苗振神事五月三日神田植祭下種より六十日初潮祭陰曆八朔神狩祭十一月廿六日等其重なるものなり就中神狩祭は農家の最記念すべき祭典なりとす本祭典は天富命大躬ら猪鹿等の惡獸を狩盡し安國と治給ひし御惠澤を古例の隨報謝し奉る神事なれば近郷の人々も其意を体し米小豆野菜酒魚等の奉納甚だ多く之を調理して朝夕の神饌に充つるを例とす

朝 御 食

白飯 神酒 海魚ノ鹽焼 鱈 水鹽

夕 御 食

赤飯 神酒以下朝御食に同じ



寺崎武男氏畫 (官幣大社安房神社緣起の一)

天つ神も籬は磐の境の圖



寺崎武男氏畫 (二の其起緣社神房安社大幣官)

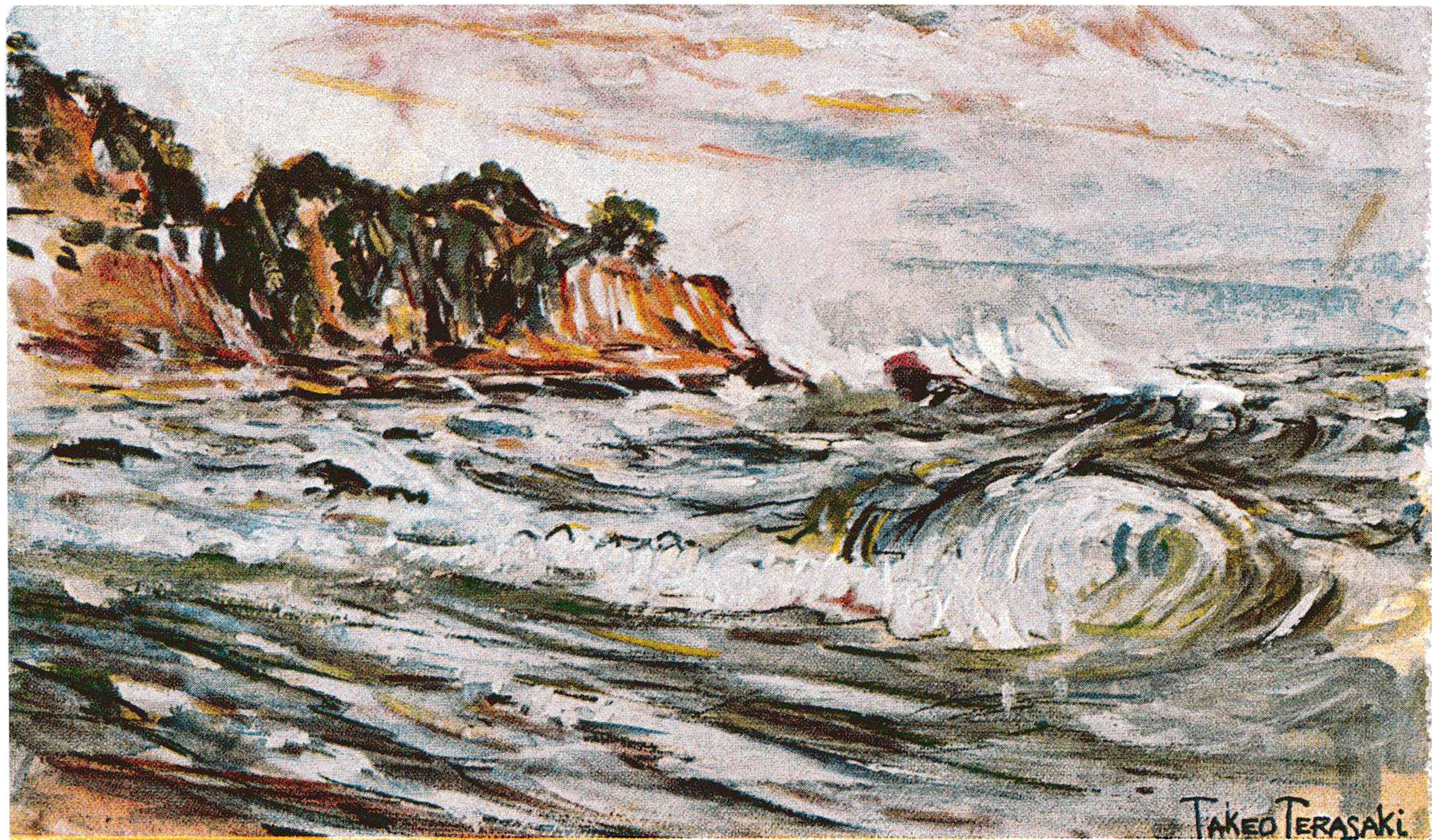
天孫御降臨の圖



寺崎武男氏畫

(官幣大社安房神社緣起其三)

天^{あめ}富^{とみ}命^{のみこと}安房國に御渡航の圖



TAKEO TERASAKI

男 武 崎 寺 (四の其起縁社神房安社大幣官) 圖の地陸上御命^{あまのみこと}富^{とみ}の天^{あめ}
 濟可許號四九二第乙地部令司塞要灣京東年十和昭



寺崎武男氏畫　（官幣大社安房神社緣起其の五）　天の富^み命^{みこと}猛獸を狩り盡し給ふ圖



寺崎武士氏畫 (官幣大社安房神社緣起其の六) 天の富命の海陸の産業を經營し給ふ圖



男 武 崎 寺 （七の其起縁社神房安社大幣官） 社神房安の今現
濟可許號四九二第乙地部令司塞要灣京東年十和昭



寺崎武男氏畫

(官幣大社安房神社緣起の八)

安房神社御鎮座神威古今に輝く圖